

ヨーロッパ人口学会2014年大会

2014年ヨーロッパ人口学会大会 (European Population Conference 2014) が2014年6月25日～28日にかけてハンガリーの首都ブダペストで開催された。ヨーロッパ人口学会 (European Association for Population Studies) は1983年に設立された学際的な国際学会であり、なかでもヨーロッパにおける人口問題について精力的に研究活動を行っているものである。ヨーロッパ人口学会は2年毎に大会を開催しており、本大会は英国のリバプール (2006)、スペインのバルセロナ (2008)、オーストリアのウィーン (2010)、スウェーデンのストックホルム (2012) に続いて開催されたものである。本大会では「転換期における機会と脅威 (Transitions: Opportunities and Threats)」の解明が共通の主眼とされた。

大会はオープニングセッションにおける4報告及びパネルディスカッションに始まり、会期中の3日間で14に大別された多岐にわたる各テーマ (「特別企画転換期における機会と脅威」、「出生力」、「リプロダクティブヘルス」、「家族と世帯」、「ライフコース」、「高齢化と世代間関係」、「国内人口移動と都市化」、「国際人口移動と移民」、「健康と厚生」、「死亡と寿命」、「歴史人口」、「人口データ及び手法」、「経済、人的資本と労働市場」、「人口政策」、「開発と環境」) について、合計117のセッション (約550の口頭報告) と約250のポスター報告が行われた。また、27日には Paul Demeny 氏による「諸国は出生率を上げることができるのか」と題された特別講演があり、いずれにおいても活発な研究交流が行われた。

当研究所からは金子隆一 (副所長)、石井太 (人口動向研究部長)、林玲子 (国際関係部長)、岩澤美帆 (人口動向研究部室長)、暮石渉 (社会保障基礎理論研究部室長)、菅桂太 (人口構造研究部室長)、是川夕 (人口動向研究部研究員) 及び佐藤龍三郎 (名誉所員) が参加し、それぞれが研究報告を行った。 (菅 桂太 記)

浜野潔氏追悼セミナー

2014年7月12日 (土) 10:00～13:00、麗澤大学東京研究センター (於:新宿) にて行われた歴史人口学セミナー第54回研究会にて、昨年12月に急逝された浜野潔氏の追悼セミナーが行われた。浜野氏は「ユーラシア社会の人口・家族構造比較史研究」に参加され、また、近世京都人口研究に多大な業績を残したが、それにとどまらず、環境・疾病といった複合領域に広がる、我が国の歴史人口学研究の要であった。セミナーでは高橋美由紀氏 (大正大学) による浜野氏の研究業績取りまとめについての発表、その後、斎藤修氏 (一橋大学)・村越一哲氏 (駿河台大学) による「近世都市の死亡構造を読む」、浜野氏と長く共同研究を行っていた Mary Louise Nagata 氏 (Francis Marion University) の「幕末京都における世帯内の力関係」と題する発表がそれぞれ行われ、全体討論が行われた。浜野氏、Nagata 氏らによる京都の宗門改帳研究は、刻々と対象町数が拡大されており、当セミナーでの発表時点ではその数は30町にのぼっていた。氏の遺志を継いで、今後も研究を進めていくことが、一番の供養になるのではないだろうか。謹んでご冥福をお祈りいたします。 (林 玲子 記)